

メロディーラインと民謡「雪山賛歌」

旧鹿沢温泉付近を時速 40 キロメートルほどで走る車からは、「オー・マイ・ダーリン・クレメンタイン」という聞き覚えのあるメロディーが聞こえてくる。

これは、2010 年に県道 94 号線に設置されたメロディーロードと呼ばれる、路面に刻まれた溝によって、一定の速度で走ると音楽が聞こえる道路である。2024 年現在、日本全国に 38 か所のメロディーロードがあり、それぞれ異なる楽曲が流れるようになっている。

日本の高原でアメリカのフォークバラードが流れると聞くと、驚く人もいるかもしれない。メロディ自体は「オー・マイ・ダーリン・クレメンタイン」の歌詞よりも前に作られていて、起源は不明だがスペインの古いバラードがルーツではないかと考えられている。このメロディは、科学者であり南極探検家でもあった西堀栄三郎（1903～1989）のおかげで、日本ではよく知られている。

西堀は京都帝国大学の学生だった頃、英語の教授から「オー・マイ・ダーリン・クレメンタイン」のメロディを教わった。また、大学山岳部に所属していた西堀は、1927 年 2 月の雪山登山の後、友人 3 人とともに旧鹿沢温泉の紅葉館に滞在することになった。西堀は友人たちの意見を参考にしながら日本語の歌詞を書き、雪山登山を歌った「雪山賛歌」が誕生した。作曲者は当時不明だったが、この歌は山岳部の学生登山家や鹿沢温泉地域の人々の間で人気を博した。

それから長い年月を経て、ダーク・ダックスというカルテットがこの歌を日本全国に広めた。1950

年、カルテットのメンバーの一人、喜早哲が長野県の志賀高原にスキー旅行に出かけた。そこで、バスの車掌が鼻歌で「雪山讃歌」を歌っているのを聞いて、この歌のことを知った。1958年7月、ダーク・ダックスはデビューアルバム『ピクニック・ソング』でこの曲を取り上げ、翌1959年6月にはシングル盤として再リリースされた。この曲が広く知られるようになったのは、同年12月にNHKの紅白歌合戦でダーク・ダックスが「雪山讃歌」を披露したことがきっかけだった。

西堀氏はその後も紅葉館に何度も足を運んだ。1965年頃、宿の主人は西堀氏に「雪山讃歌」の歌詞を書き留めてほしいと頼んだ。その歌詞は現在も紅葉館に展示されている。翌年には、この歌の生誕を記念して、西堀氏の直筆歌詞のレリーフが旧鹿沢温泉に設置された。